

# 研究の構造

## <研究仮説>

書く力を育てるためには、国語科においては書く力の要素である「意欲」「技能」を高めたり「考え」をもったりすることができるような具体的な手立てが必要である。

そして、国語科で習得した力を、国語科の他の単元や他教科等の学習で活かしたり広げたりしながら活用し、成功体験を積み重ねることにより、書く力が育つであろう。

### 習得 ★国語科「書くこと」の系統的指導

#### 具体的な手立て(平成30年度)

- (1)「意欲を高める」
  - 題材の設定 相手意識 等
- (2)「思考を深める」
  - 適切な時間の確保 思考ツール 等
- (3)「知識・技能の習得」
  - モデル文 指導事項の確認 等

#### 具体的な手立て(令和元年度)

- (1)「意欲を高める」
  - 題材の設定 相手意識 等
- (2)「思考を深める」
  - 教科の見方・考え方を踏まえる
- (3)「知識・技能を活かす」
  - 国語科で学んだことの確認

### 活用 ★各教科における横断的指導 →「書く活動」を教科横断的に取り入れた年間計画作成



## <調査方法>

仮説を立てた8月から4か月にわたって、各学級で観察対象児童2名(計24名)の変容を記録した。そして、月に1回、研究会でその様子を報告し全体で共有した。また、手立ての有効性を協議した。